

第2回

上野地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：平成30年6月22日（金）

10：30～12：18

場所：台東区役所10階 1003会議室

午前10時30分 開会

1 開 会

2 座長挨拶

3 議 事

(1) 第1回ビジョン策定委員会の振り返り

○座長 それでは、お手元の議事次第をごらんいただきたいと思います。多くの議題が出ておりますが、最初に、第1回の本委員会の振り返りからお願いしたいと思います。

<事務局より資料1について説明>

○座長 きょうも資料が出ており、それをベースにいろいろご議論いただきますので、もし何かさらに補足したいことがあれば、そのときに皆様のほうからご発言をいただきたいと思います。

(2) 基盤整備部会における検討状況について

○座長 それでは、これまでの作業の検討状況についてのご説明いただきたいと思います。基盤整備部会を設置いたしまして、そこでいろいろと議論をしていただきました。副座長から簡単にご紹介いただけると幸いです。

<副座長より資料2について説明>

○座長 基盤整備の考え方について議論を重ねていただきました。今ご説明があったとおり、名称としては、仮称アーバン・ステップというもので、山とまちとをつなぐというような空間構成をもう少しはっきり出したいということかと思えます。

とりあえずご質問か何かあればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 2点確認ですが、1つは、上野地区の範囲というのが、思っていたより南のほう
が少し切れているという感じがするのですが、一回全体で共有したほうが良いと思います。

あと、これはあえて聞くのですが、広場が全て「駅前広場」という名称となっているの
で、何となく20世紀的駅前広場が想起されるのですが、恐らくここでイメージされている
のはそういうものではなくて、もう少し未来型の広場をイメージされていると思ったの
ですが、いかがでしょうか。

○副座長 1点目のご質問については、私の説明の最後のほうで申しあげましたように、
今急いで駅の周辺を議論しているために、図面も周辺が切れてしまっている状態だと思
いますし、表現として余り適切ではないとされていて、ある程度上野のエリアというのは意
識しなければいけないのですが、結構欲張りに広げて良いのではないかと考えております。

2点目は、まさにご指摘のとおりで、2枚目の説明で言いましたが、歩行者ネットワー
ク、広場空間、道路と書いてありますが、わかりやすさはあるのですが、この言葉から捉
えられるものだと、少し狭いのではないかと考えております。

○座長 ほかに何かご質問があればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

私から、きょうは、話としては定性的なものでしたが、定量的な話は今どこまで進んで
いらっしゃいますか。

○副座長 周辺の交通量や通行量の調査を区のほうで独自に進めていただいて、主要なポ
イントの流動量はわかっています。それから、鉄道会社さんの中の関係の通路等につきま
しては、過去、数次にわたって調査がございまして、その辺の量も押さえてあります。

それから、先ほど少し申しあげましたように、このアーバン・ステップは、きょうは模
式的に書いてありますが、模型を見ていただいてもわかるように、非常に複雑で、上下の
位置関係が非常に重要ですので、そういう意味では、図面レベルで確認しながらの作業を
しています。

○座長 流動の話になってくると、おのずと量が要るのですが、事務局のほうからありま
すか。

○事務局 今、副座長からご紹介がありましたように、私どものほうでも、歩行者の流動
ですとか、皆様のご協力をいただきまして改札口の乗降などのデータをとって、それ
を取りまとめる作業を今行っております。また改めてご紹介させていただくという形にな
ろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○座長 量の話もこれに足していただくということですね。よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかには何か基盤整備に関して、作業としてのご質問、これからこれをやってほしいというご要望、ご意見があればさらに重ねていただきますが、いかがでしょうか。

では、私のほうから、共通の理解をするために模型をつくっていただいたのは大変わかりやすいのですが、できたら、皆さんが共通にわかるように、高さをしっかり押さえた図面を1枚つくっていただけますか。デッキや駅の中の広場の位置なども高さが微妙に違うので、図面の上に高さが入ったものを1枚、共有で皆さん理解できるようにしておくほうが後々便利ではないかと思ひますので、ぜひつくっていただければと思ひます。

(3) 副都心上野まちづくり協議会からの提言について

○座長 基盤だけでなく、一方で、まちのこれからのあり方については、地元の皆さんを中心にして議論を重ねていっていただいたものがあって、それが次の資料3にあります。まちづくりビジョンの素案という形で、副都心上野まちづくり協議会のほうで取りまとめでいただいています。

こちらは、同会会長の委員さんからご説明いただければと思ひます。

<委員より資料3について説明>

○座長 ありがとうございます。地元で検討を重ねていただいた上野地区まちづくりビジョンの素案ということで、今ご説明があったとおり、一応、最終報告の形の提言になったということですね。

何か皆さんのほうからご質問があればお受けしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

○委員 14ページのところで、藝大が半分に分割されているので、藝大と東京国立博物館も含めた図のほうが本当はふさわしいのではないのでしょうか。

○委員 アートクロスという話もお伺ひしており、これは当然もう少し広げるべきですね。

○委員 東京国立博物館も含めて、もっと広げたほうが良いと思ひます。

○座長 先ほどの絵は南側が不足していると言われて、今回は北のほうに不足していると言われてましたので、両方足してバランスよくやっていきたいと思ひます。

ほかにはいかがでしょうか。

では、ありがとうございました。

(4)「上野地区の将来像（目指す姿）」と「検討テーマ」について

(5) 今後の検討の進め方について

○座長 それでは、これまでの基盤整備の検討の結果あるいは今の地元のご提言を受けて、事務局のほうでこれからの検討テーマ等について整理をしているようですので、この説明をお願いしたいと思います。

<事務局より資料4・資料5について説明>

○座長 今ご説明があったとおり、きょうは、上野の将来像の議論と、これからどういうテーマを深めていこうかということの意見交換をこれからさせていただきますが、具体的には、それを基盤整備部会とまちづくり部会の2つで深めていきたいと。お手元にご覧いただけます設置要綱を見ていただくと、基盤整備の部会とまちづくりに関する部会を設けていきたいということで、別表がございまして、大体どんな方にどういうところに入ってもらえると良いのかというイメージが書いてあります。地元の皆様にはまちづくり部会のほうを中心に、そして、特に行政関係の皆様には基盤整備のベースになるところをしっかりと議論していただくという話になっているように思います。

まちづくり部会のほうはこれから立ち上げるということで、少しこの説明をしていただけますか。

○事務局 上野地区まちづくりビジョンの策定に向けまして、専門的な検討を行うため、先ほど座長からご紹介がありましたとおり、設置要綱第6条第1項に基づきまして部会を設置することといたします。この部会につきましては、要綱の別表3に掲げる方で、学識経験者、町会、まちづくり協議会、商店街連合会、観光連盟の皆様を中心に構成してまいります。

部会員にご就任いただく皆様には、後日手続をとってまいりたいと考えてございます。そのうち、部会長につきましては、要綱第6条3項に基づきまして、学識経験者の委員

のうちから、座長の指名により定めることとしております。座長からまちづくり部会の会長のご指名をお願いしたいと存じます。

○座長 今お話がありました、基盤整備部会のほうは高見先生にやっていただいでいて、まちづくり部会のほうも、どなたか学識経験者の先生に運営役をお願いしたいということでございます。

これまでの経過からいうと、加藤先生がいろいろかかわっていらっしゃるように伺っていますので、もしよろしければ、加藤先生に、まちづくり部会のほうは、防災の話もございましたので、まとめ役をやっていただけるといいと思います。

その2つの部会で、ハードのお話と、それから、より具体的なアクティビティ、どういう活動をどのように展開していくのかという議論を並行してやっていただくというのが大きなたてつけになっているわけですが、そうはいつでも、上野全体をどこへ持っていくのかという議論を共有しておかなければ、それぞれが違う方向に走ってしまいますので、きょうはぜひ、事務局が資料4を用意していますが、ここを中心にして、各委員から、こんな方向で良いのかどうか、あるいは、こういう部会があるのだから、ここもぜひ議論してほしいとか、抜け落ちがないのかどうかということも含めてご意見をいただきたいと思います。

ここからはどうぞ自由にご発言いただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○副座長 こういう形で進むことは承知していて、そういう意味では、基盤整備部会がやや先行しているのは、本質的にはちょっと気になっているところです。どういうまちにしなければいけないのに、何をすべきかがわからない中で基盤の議論をしております、したがって、課題解決型の議論を先行しました。

きょうは資料4で、この地区の全体像の枠組みが示されていて、大きな文字で書かれていることなどの構成はよくできていると思いますし、特に異論はないのですが、1つ皆さんと意識を共有しておきたいことがあります。

といいますのは、文化・芸術の殿堂だとあるし、国もそういう方向で行っているし、文化の杜新構想もそう言っているわけなのですが、個人的には、私、40年ほど前に東京藝大に在籍しているころからそう思っていたのですが、上野の芸術というのはかなり限定的な幅しか扱っていない、平たく言ってしまえば、クラシック音楽と油絵だけみたいな世界なわけです。

実際、例えば、今ご紹介があった世界の大博物館、ルーブルとかは、世界レベルでこ

れという売り物があるわけです。上野は、国内レベルではそれはありますけれども、世界的に見てそれがあつかいと、余りないだろう。西洋美術館は松方コレクションで、印象派とロダンなどがありますが。

ということなので、文化・芸術をどう捉えておくかという議論が要ると思います。つまり、今あるものを活かすということか。殿堂というのであれば、もう少しそれを広げていくという認識を僕らが持っているのか。そのこと自体を議論する場はここではないと思いますけれども、そのように思っています。

そういう観点から目を広げますと、まちと言っているほうに、江戸時代から連なる文化の中に芸術と呼べるものも多分点在していますし、法律には芸術の中に文学とも書いてありますから、谷中のほうに広げていけば、そういう要素もある。そう思っていくと、上野公園の中の現在のもも変わっていくだろうし、文化の杜新構想で、私がかねがね気になっているのは、音楽のことにほとんど触れられていなくて、美術の話ばかりだということも気になっております。

ですので、多分ここで我々が思っているのは、何となく今あるものの世界でしか議論ができないのであるけれども、それをもう少し上野という名前で幅を広げていくという議論に私は期待したいのですが、そのあたりは皆さんどうでしょうか。

○座長 では、今の問題提起に対して、もし何か先生方のほうからご発言があれば。

○副座長 それから関係して、東京藝大もその辺の問題意識を持っていて、少し前に先端（芸術表現課）をつくられたり、今、スーパーグローバルユニバーシティで頑張られている。その辺のお話も絡むかと思っています。

○委員 藝大の今の動きとしては、スーパーグローバルに選ばれたので、留学生がかなり増えてきている。10年前とは違う学校のようになっているというのが印象としてあります。それと、藝大の考え方というか、今私が藝大でやっているのは、藝大の周囲の柵を全部取っていく運動をやっています。柵を取って、植物を植えるということをやっています。

上野公園についての私の印象なのですが、私は余り公園という印象を受けないのです。それはなぜなのかというと、例えば代々木公園などはいかにも公園という気がするのですが、どうも道路によって区画されている、幾つかに分割されているような印象があって、先ほどの資料3のスライドなどで非常によくわかるのですが、あそこが人の道に変わっていくと、かなり変わるだろうという印象で、例えば不忍池との間の道も、歩行者

道になれば、上野公園とかなり一体した、すごく良い空間が生まれそうな気がしますし、東京国立博物館から藝大に行く道もそうだと思いますし、今、鉄道横の、今後、車を入れないようになるところの公園と駅との間の道も、歩行者道になれば、相当公園らしくなるという印象を持ちました。

それと、資料3で提案されている、駅上の広場ですが、あれも私は非常に可能性があると思うのです。車を上まで入れないということになると、タイムズの駐車場が既に人工地盤としてありますが、あれも使えるのではないかと。入れなくなった途端に、あそこは駐車場ではなくなりますから、あれを使えて、今、JRの公園口が移動すると、JRのコンコースは口の字型になっていると思うのですが、資料3の絵では一方にある感じでしたが、コの字型にすることもできると思うのです。手前側のコンコースは要らなくなるのではないかと。そうすると、その内側に駅前広場というか、駅上広場ができそうな感じがあって、その駅上広場から、今の駐車場の、レベルはもう1つ上になりますが、それへずつつなげていくと、ここで言っている、「杜を拓げる」と言われているような動きがすぐにもできそうな気がしたという印象です。

それと、先ほどの柵を取っていくということなのですが、これを上野公園の全ての美術館などでやると、本当に美術館が点在していて、非常に近寄りやすい。緑が相当ふえる。今は、塀の中には緑があるけれども、外にないものですから、余り上野公園は緑がないように私は見えてしまうのです。塀で囲っていたところで、乗り越えようとする人は乗り越えてしまうので、取ってしまっても、建物の部分でコントロールすれば全然問題ないのではないかと。そうすると、緑の部分をどんどん外へ出すことができ、公園自体が本当に公園らしくなってくるのではないかと思います。東京都美術館にしても東京国立博物館にしてもそうなのですが、あそこにある鉄柵の意味は何なのだろうか。そうすると、この構想の中にあるような、ルールと並ぶような、公園内に美術館が点在する、建物が点在してある、ほかにはなかったような公園ができそうな気がしました。

ここがそのようになってくることによって、ようやくまちとのつながりが持てるようになるのではないかと。私は、どちらかというと、上野公園内にいる人間なので、そこから広げていくことによって、屋上庭園、人工地盤上、それによって東のほうにはずつつながっていきそうになるし、南のほうには不忍池を含めた公園ができることによって、よりつながっていきけるのではないかなという印象を持ったところです。

○座長 副座長の問題提起は、「文化・芸術の殿堂」と書いてある資料4が、殿堂というには少し寂しいのではないか、何もないではないかという感じだが、それに対して今のご意見は、いや、単品で見るとそうかもわからないけれども、いろいろなものがあって、それが複合すれば、先ほどの資料にあったとおり、合計すれば800万とか1,000万の博物館群、美術館群があると思ったらどうかということのようにもお見受けしました。

本当に売り物がないのですかね。東京国立博物館や科博は日本のお宝のような気がするのですが。

○副座長 私は専門ではないですが、一定程度のお宝は当然ありますが、結構前の時代でとまっている気がします。上野の立場で考えると残念なものとして、二国は新宿だし、新美術館は六本木だということで、結構何十年か前でとまっているような印象もあります。

○委員 フランスなどは、そういう点では、ルーブルとポンピドーと役割分担がしっかりとできているのですよね。それぞれが、モダンアート中心だとか。そういう意味でいえば、上野にあるのは、かなりとまっていると言われれば、間違いなくそうだろうと思います。モダンアートの部分はかなり弱い。

○座長 もう1つは、先ほどのお話で、まち側にもいろいろな文化がある話が、何となくハイエンドな感じの、「殿堂」なんて書かれると、少し落ちてしまうみたいな感じが。

○副座長 それも含めて殿堂でも良いのです。公園の中にある、アカデミックは魅力ではあるのだが、少し旧来のものと、目をまわせば周りにもいろいろあるので、それらを全部含めて殿堂で良いと思います。そのほうが広がる。

○座長 他の委員はいかがですか。

○委員 2点あります。

まず1点は、先ほど委員のお話があったところで、柵を取り払うのはすごく良い提案だと思うのですが、そのためには、単純に柵を取り払うだけではなくて、視認性を高めなければいけないというのが非常に重要なポイントになってくると思います。

南側のまちのほうから考えると、先ほど資料3の提案にも繰り返しありましたとおり、以前は広小路の火除地からのビューが成立していたのが、なかなか成立しなくなっている。この部分が、袴腰を結節点として、これから非常に重要なポイントになってくると思いますので、アーバン・ステップをつくっていくことで、ハード面は良くなって

いったとしても、まちの中の景観、広告といったものを全て含めて、ある一定のルールづくりみたいなことがここにかんでこない、最終的にはうまくいかないのではないのでしょうか。これがまさにこれから議論しようとしている部会の進め方というところとかかわってくると思います。基盤部会が先行していただいて、こういうビジョン、アーバン・ステップというものを示していただいたのですが、そこに魂を込めるといいますか、実際にどう運用していくのかは、まちづくり部会のエリアマネジメントの課題になってくる部分も非常に多いと思います。その辺をどう相互連携しながら進めていくのか。この辺、事務局のほうでも茶色のところでお示しいただいたと思うのですが、その進め方は、考えたいテーマの一つであると思います。

もう1つ、今、高見先生からもお話があったことですが、まちと山というのは、長年、上野では山の文化とまちの活気というような、大体、二分法で語られてくることが多かった気がするのですが、今回、僕も事務局のほうにご意見を申し上げたのもありまして、「多様で特色ある文化・歴史資源」というところに「激動した江戸・近代の日本が生きているまち」という文言が刻まれました。どちらが活気でどちらが文化というのではなくて、まちのほうにも特に歴史資産がものすごくあるということです。

私が回遊性というところのコンセプトとしてご提示したい、皆様と方向性を共有したいと思っているところがまさにここでして、海外から来たインバウンドの方に日本の歴史を見てもらうという部分においても、日本が一番激動した100年間——今も激動の時代と言われますが——はどこかと考えると、1850年から1950年までの100年間だと思うのです。つまり、この100年間は、幕末から戦災復興という時代ですよ。その100年間の間に上野はあらゆる局面で全て主役になっているというところが非常に歴史資産として重要だと考えております。

ご存じのとおり、幕末期には上野戦争があり、慶喜公がその後、寛永寺に蟄居して、その後、内国勸業博覧会等を含めて文化施設がどんどん建っていき、上野がまさに近代の窓という形になっていったわけです。ここまでは山が強い時代。それから震災があって、資料3の報告にもありましたが、またそこでも上野の復活がなされ、そして戦争、この戦災復興を東京で一番象徴する場所はどこかといったら、その1つは間違いなくアメ横だろうと考えています。

アメ横は、上野の中でも商店街としては非常に元気ですが、歴史的な積み重ねという意味では比較的新興の商店街となりますので、上野の中では歴史と捉えられることが比

較的少ないエリアではあります。しかし、戦災復興の時代、闇市の起源の雰囲気を残しているのは、東京の中で事実上あそこだけですから、これはもう70年以上の歴史性を備えていると考えていいと思うのです。まさに近代日本が激動してきた歴史を、山からまち、戦災復興の時期まで一体として見られるということ、何かうまいキャッチコピーをつけてご提示していくことで、海外に向けて非常にわかりやすい、上野で日本の近代がわかるということは、すごく良い形で、さらにこれが回遊性にもつながっていくのではないかと考えております。

○座長 先ほどのご意見の中で自動車の動線の話がありましたが、もう一方で視認性の話があって、空間の構成についてちゃんと考えなければいけない。これは基盤のほうでぜひお考えいただきたいと思います。そうはいってもアーバン・ステップに魂を入れなければいけないのではないかという話もあって、具体的には、上野の山のほうの文化だけではないというお話に続くわけですが、資料4でいうと、どちらかというと、「杜とまちを含めた総合的なブランディング」というイメージです。文化は山にだけにあるわけではないということについて、しっかりと認識しながらまちをつくっていくということですが、まちづくりの部会としては何かございますか。

○委員 今後の検討を進めるに当たって、個別の検討テーマはそれぞれ展開していけるかと思うのですが、この黄色の真ん中の部分は、ぜひきょうきちんと共有したいと思っているのです。

私の家内は藝大を出ていて、一応芸術に近いところなのですが、私は完全に素人なので、素人からこれを見ますと、先ほど座長がハイエンドとおっしゃっていましたがけれども、随分品行方正な感じがしてならないのです。素人的に、文化、芸術、伝統、歴史なんていう言葉を並べられると、完全に固定化されてしまったもので、もう変えてはいけないものという印象を強く受けるのです。

上野の魅力というのは、山の文化として、私の偏見のある言葉である文化・芸術の拠点であることはもう間違いない。一方で、まちの文化というか、町人文化というか、ここが非常に重要な要素かと思っていて、この両者がハイブリッドしていることが上野の魅力だと思うのです。しかし、この黄色の枠の中を見ると、そのニュアンスがいま一つ伝わり切らないような気がしますので、ぜひこの2つのハイブリッドだということをきょうぜひ共有していただければと思います。

さらに、町人文化とは何かと考えると、先ほど委員が、アメ横だって重要な文化だし

歴史になるのだという話をされていましたがけれども、結局のところ、常に変わりゆくものであり、ただし、単に消費されるだけではなくて、ちゃんと脈々と受け継がれて、蓄積されていく。

要は、これからまちの賑わい、活気、まちの中での活動というのが、未来から振り返れば、多分、伝統とか守るべき文化になっていくと思うのです。そういうことができるようなまちを上野で実現していく。そういうニュアンスが伝わるような表現にぜひ変えていただければと思います。基本的には全面的に副座長の問題提起には賛同しているところです。

次のページにいろいろな関連計画などが載っているのですが、いろいろな数字も出てはいるのですが、実はちょっと古い数字なのです。ここに出ているいろいろな数字は、多分、まちのボリューム感にかかわってくると思うのですが、例えば左上の閣議決定した「文化芸術の振興に関する基本的な方針」の一番下を見ると、訪日外国人旅行者数を2020年に2,000万人にすると言っていますがけれども、もう去年ぐらいで3,000万人くらいですよ。多分、去年で2,800万とか3,000万とか、そういう数字になっていることを考えると、ここに出ている数字がむしろ現実に追いついていないような気がしますので、そこは少し精査されて、もっと膨らませたほうが実は現実的ではないかという気がいたしました。

○座長 後半のほうは、ぜひブラッシュアップしていただいて、今の数字を、もう目標よりもインバウンドに関しては先へどんどん行っていますので、観光に関しては多分もっといい数字が出てくるだろうと思います。

最初のほうのご指摘は、皆さん、きょう、こちらのほうのメンバーは大体共通のことをおっしゃったような気がします。山だけが文化ではない、まちの文化と2つがここで融合するところに上野のおもしろさがある。その上のほうの、山のほうの文化は、本当にハイエンドな、一番世界に売れるものかどうかというのは、若干意見が分かれたかもわかりません。でも、そういうものにしていかなければいけないという意識は、もちろん皆さん共有している。それを、空間的なつながりをうまくやって、視認性を高めて、あるいは歩行者系動線をうまく処理して、各施設がより一体感を持って捉えられるようなまちにしていくのではないかということについては、比較的皆さん共通のご指摘だったように思います。

どうぞ、ほかの委員の皆様からも、今のようなことでいいのかどうか、ご意見があれ

ばぜひいただいております。これからの作業を部会でやっていただきますので、そのときに、今のような大きな目標感が違っているとまた作業が変わってきてしまいますので、きょうぜひいろいろなご意見をいただいておりますからご発言いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○委員 山に関しては、古いか新しいかというのは、私は素人でわからないのですが、例えばフランスだったらフランス文化とか、いわゆる日本の美術品というのは、例えば中国とかフランスとかから見たら値段的にも低いわけで、そういう違いはあるにせよ、そういうものの良さのようなことを伝えられる空間なり、まちなりにいずれ近づいていく。別に和風建築にしろという話ではなくて、全体に魅力を伝えられるようなものにしてもらったら良いと思うし、日本の今の美術とかそういうのは、フェノロサという人が来て、それで発見された部分があるので、そういう新しい視点をどんどん入れていくという意味で考えていけば良いと思います。もう1つは、よく、キャッチフレーズをつくるとか、新しい顧客を引き込んでいくというところがあるのだけれども、やはりリピーターとか、ディズニーランドに10回以上の方が半分くらいと言われるくらい、上野のまちな何回も来て楽しめるように、どんどんやっていけるように、まちづくり部会で議論していけたらいいなと感じています。

○座長 インバウンドの方の傾向もちょっと変わってきていますから、いろいろなところを自分で見るような、ゴールデンルートだけではなくてきていますので、リピートする方たちをうまくつかまえるというのは確かに大変大事かもしれません。

ほかにはいかがでしょうか。地元の皆さんのほうから特に、先ほどのような上野のイメージについて、そんなのではないというのであれば、今のうちに言っていたほうが良いと思います。部会がこの方向で行ってしまうと、後でなかなか戻ってくるのは大変です。

○委員 先ほど委員が言われた数字というのは、今、1月～4月までの直近で、今年1,032万という数の訪日外国人が来ている。ということは、先ほど言われた2,000万ではなくて、今年3,000万に到達する。昨年が2,869万ですね。

私が言いたいのは、上野という場所が、例えば2020も含めて、『あゝ上野駅』の話などもありますが、ノスタルジーを語るならば、東北の方々が初めて訪れた東京が上野だったと、これと同じように、成田から来られたときに、スカイライナーで来られたら、上野が初めての東京である。

我々も外国に行ったりすると、駅で降りたり空港を出たりすると、そこでフランスならフランスを感じますよね。上野がその玄関口であるということは、鉄道もそう、空港からの流れもそうですから、そういう意味でいうと、非常にきれいでなければいけない。日本がきれいなのかどうか。そういう第一印象という点で整備の基盤は考えていかなければいけない。

それから、先ほど委員が言われたように、私どもが非常に大事にして守ろうとしているものは、歴史、文化です。日本を代表する江戸から明治への移り変わりの舞台は、まさに戊辰戦争であり上野戦争の場所はここであったし、他の地域には全くない、日本の大きな時代の流れを語れる場所である。35万坪寛永寺から現在このように集約されて、江戸の否定をして明治維新政府ができたということを言える場所であるし、そこで近代的なこういう博物館、美術館ができたという事実があります。

それから、アメ横の歴史は、本当に、闇市から派生したものの中で、有楽町は“ラクチョウ”、銀座は“ザギン”とか、いろいろなところで言われていますけれども、商店街の形態として、満州から引き揚げてきた復員兵400名と一緒に結集して手を組んで始めた江戸の台所といいますか、アメ横商店街が脈々と続いている。こういう場所も日本遺産に匹敵するような文化的な資産であると考えています。『あゝ上野駅』の東北の集団就職の歴史とアメ横の派生も全部つながっている。ですから、基盤と歴史・文化的な要素を複合的に考えながら整備していかないといけない。

上野という地域は最も再開発のしにくい場所ではないかと私は思っています。ここになくってはならないもの、守るべきものというのは、渋谷のようになってほしくはないと思っている。我々が持っている歴史性、文化性、伝統を保持しながら再開発していったほしいという希望を持っております。よろしくお願いします。

○座長 ほかの地元の皆さんはいかがでしょう。

○委員 思い返せば、上野公園の基本構想策定会議に30年ぐらい前に出席しまして、（上野公園の施設の）皆様とやりとりし、何で山に人がいっぱい来ているのに、まちのほうにおりてきてくれないのかという話をしましたら、「いや、実は俺たちだって同じことを思っているよ。まちにあんなに人がいるのに、何で山へ上がってこないのかということ言っている」と。何だ、同じこと言っていたのかということで、では交流を図ろうではないかということをしたときに、まちの中に博物館の分館みたいなものをつくらうらどうということ、蘭奢待（らんじゃたい）があるのでしょ。蘭奢待がありま

すと出して、人を集めたら集まりますよ」と言ったら、博物館の方が「じゃあ、恐竜の頭を出してやるよ」という話になって、実際に恐竜の頭はつくばで出しているところがあるのだそうです。

要するに、いろいろな形で交流していこうとは言ったものの、結局30年たってまだそれが実現できておりませんので、この会の中で、何とかそういう文化交流というか、お互いの交流をしていくということが達成できたらと考えております。

○座長 ありがとうございます。ぜひその辺はまたつなぎを皆さんでお願いしたいと思います。

あとの方は特にご発言がなくてよろしいですか。まちづくり部会でもまたご発言いただけますが、全体として基盤の話と2つ並行して走っていきます。基盤系の皆さんのほうから特に何かご注文あるいはご質問、ご意見があればいただきますが、いかがでしょうか。国のほうから何かありますか。

○オブザーバー 私も先ほどの委員と同じで、芸術は関係ないので全く疎いのですが、先ほど、ハイエンドかどうかという話もありましたけれども、町人文化みたいな話も含めてという話になっていくのでしょうか。（文化を）広げるとすると、多分そういうことを踏まえた現代アートの話とか、今後、そういうものからいろいろなものを創作していくとか、そのようにもつながっていくのではないかと、素人ながらに思っています。

そうであれば、まちづくりと文化・芸術の発展の仕方も多分重なっていくのかと思っていて、今まであるものだけではなくて、多分、これから移住してくる人とか、あるいは上野に来て活動する人とか、多分、旅行者も含めてだと思のですが、そういう人をどう受け入れていくかという視点が、まちづくり部会の中でもかなり重要なテーマの一つになるのかと思いました。

それから、もう1つ、エリマネという話もキーワードとしてありましたので、多分、区のこれまでの取り組みでも、住民活動のいろいろな支援制度があるように伺っていますが、まちづくり部会やビジョン策定委員会でビジョンを策定して、結論が出てから事業化というのではなくて、今からでも進めていращやるでしょうし、進めていける取り組みなので、そういうのをどんどん高めていって、基盤整備ができたから始めようというのではなくて、ニーズが高まってきて、ではここをつくろうという、お互いの双方向性の話だと思うので、そういうのはぜひ進められるところは進めていっていただきたいと思います。

それから、文化・芸術という話なので、最近、いろいろな世の中の課題をデザインとかアートで解決しようという動きがいろいろなところであると思うので、例えばアートやデザインで解決する防災まちづくりとか、もしかしたらそういうおもしろい発想もあるのかと思ったので、つけ加えておきます。

○岸井座長 部会長、頑張ってください。

ほかにはいかがでしょう。

○オブザーバー 先ほど、資料3の案を見せていただきまして、非常にすごいと思って、感銘を受けました。実は、そのときに感じたのは、これまで5回再生しているという話なのですが、戊辰戦争で焼けたとか、いろいろあるのですが、昔からのものを追い出していないというのがすごいなど。実は寛永寺だってちゃんと上野の山に残っているし、そういうのをどんどん上野というのは吸収してきたのだということに改めて思いました。

私のコメントとしては、今後どう新しいものを入れていくのか。先ほど、この中でも、再開発とかいろいろな構想がありましたが、どういうエリアでそれを誘導していくのかというのが1つと、逆に、今まで入れた中で唯一どうもうまくいかなかったのが駅と周りのものだったということなのかと。それは多分、機能的なものと景観的なものなので、そういうものは開発などで新しいものを入れていくときに、いかに基盤をしっかりと考えておいて、機能的にも景観的にもそのまちを阻害なくて、上野の山とまちのつながりを生かしていく、そういうことを考える必要があるではという感想を持ちました。

○座長 ほかの方はいかがですか。よろしいでしょうか。特段ご発言はありませんか。

(6) その他

○座長 多くの方々から出たご発言のとおり、山のほうの、ここでいうと文化の杜新構想推進会議で動いていることをいかにして下のまちの活動とつなげるか。逆に、下のまちにあるさまざまな文化をいかにして上の山に取り込むのか。恐らく駅部がその接合する場所になるのではないかとみんな思いながら、その答えの出し方をまだ具体的には描けていない。空間的なしつらえ方、アーバン・ステップという概念は出てきましたが、それが一体何なのかということについて、またさらに一段と詰めていただきたいと思いますし、まちの皆さんからのご要望、それから山のほうの文化の杜新構想推進会議からのご要望を受けて、駅がどうあるべきかということも柔軟に考えてもいいように思うの

です。いろいろなものを受け入れていく場として、今回、もし手を入れるならば、手を入れる場所にそれをうまく具現化していくということに向かって努力していきたいと思います。

これからまた2つの部会で作業していただいて、ある一定の段階でまたこういった会をやらせていただきますが、それぞれの部会に皆さんに入っているように思いますので、どうぞ幅広い活発なご意見を交換していただいて、次回に向かって作業を深めていただきたいと思います。

何か特に事務局のほうからこれからの進め方に関してあれば、お話しいただけますか。
○事務局 ありがとうございます。

今ご指摘もいただきましたように、上野文化の杜新構想推進会議のほうとも少し連携し、話を少ししてみて、先ほどご意見をいただいているような、文化をどうやって高めていくのかというようなことや、逆に文化の杜のほうで何をしていただけるのかという話も含めて、少し考えさせていただきたいと思います。

それと、基盤整備部会とまちづくり部会、いずれもそれぞれ相互乗り入れみたいな話もございますので、そこら辺は合同部会等も含めて少し議論を深めたいと思っております。

次回策定委員会は11～12月頃と考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。詳細はまた追ってお知らせいたします。

また、まちづくり部会のほうは、先ほど申し上げましたが、7月13日に予定させていただいておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと存じます。

事務局からは以上でございます。

○座長 本日頂戴したご意見を踏まえて、資料4をさらにブラッシュアップしていただいて、各部会にもう一度それを投げかけていただいて、具体化する作業に入っていただくということで、ぜひお願ひしたいと思います。

4 閉 会

○座長 本日は少し時間オーバーをいたしまして大変失礼しましたが、以上で第2回の会合を終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

○事務局 どうもありがとうございます。

午後0時18分 閉会